

# マリンレジャー安全レポート

第七管区海上保安本部  
マリンレジャー安全推進室  
TEL093-321-2931(担当：櫻谷)

第83号 平成24年8月



左の写真は、7月に七管区内にある海水浴場で発生しました海浜事故における、福岡航空基地の機動救難士の捜索の様子です。機動救難士はヘリコプターで現場に駆けつけ、海面に降下し、このような捜索も実施します。福岡航空基地では、海浜事故発生時において迅速に現場に駆け付け、救助活動が行えるよう日々訓練を行っています。



バックナンバーはこちら

[http://www.kaiho.mlit.go.jp/07kanku/gyoumu/kyunan/marine\\_anzen\\_report/](http://www.kaiho.mlit.go.jp/07kanku/gyoumu/kyunan/marine_anzen_report/)

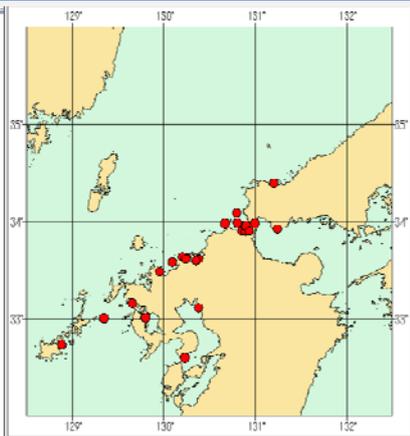
## 注意！！ 海浜事故が多発しています。

お盆も過ぎ、夏休みもいよいよ終盤にむかっていますが、まだまだ海水浴など、海に出かけたいと思っ  
ていらっしゃる方が多いかと思えます。7月には7件の遊泳中の事故が発生しており、8月に入っても事故  
が続いています。海浜事故は若年層の事故が多く、泳力を過信した無茶な遊泳によるものや、小さなお  
子さんについては、親御さんが目を離した隙に、行方がわからなくなり溺れてしまう事案が見受けられま  
す。小さなお子さんは、波打ち際で遊んでいる場合、波による転倒、後に引き波により沖に流されるとい  
った場合も考えられ、水深が浅い場合でも顔が水に浸かってしまえば、溺れてしまう可能性が十分にありま  
す。海水浴を楽しむときは以下のことをしっかり守ってください。

### 海水浴を楽しむときは、

- ※ 遊泳禁止場所で泳がない。
- ※ 体調不良時、飲酒後などは泳がない。
- ※ 一人では海に行かない。
- ※ 連絡手段（海のもしもは118番）を確保すること。
- ※ 遊泳禁止発令時は泳がない。
- ※ 自分の泳力を過信しない。
- ※ 小さな子供さんからは、目を離さない。

●平成24年7月プレジャーボート等海難発生地点図



平成24年マリンレジャー事故発生状況					
海難種類	船舶事故隻数		海浜事故者数		
	7月	累計	レジャー種類	7月	累計
衝突	4	16	釣り中	1	11
機関故障	7	29	遊泳中	7	8
乗揚げ	3	6	磯遊び	1	1
運航阻害	6	23	その他	3	7
安全阻害	0	2			
その他	6	14			

### 海で命を守る 3つのポイント

- ライフジャケットの常時着用
- 連絡手段の確保  
防水携帯電話の携行！
- 海のもしもは「118番」

JCG

海上保安庁第七管区海上保安本部



# 発航前点検をお忘れなく！ (その2:機関の点検・前編)

## 燃料油の点検

### ○ 燃料油量の確認

燃料タンクの油量は十分ありますか？

気象海象の状況によっては、予想以上に燃料消費量が増加することがあります。

出航時は航行予定を勘案し燃料油量が十分か確認を行いましょう。



《豆知識》

$$\text{燃料消費量} = \text{船体重量} \times \text{速力}^3$$



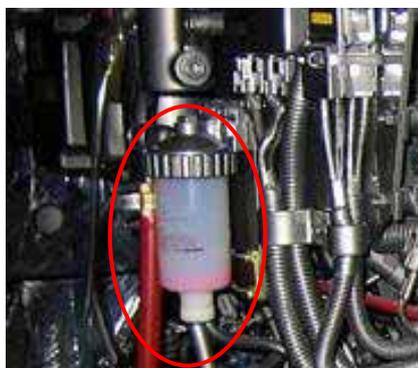
速力を落とせば消費量下がる

### ○ 燃料油水分離器

燃料油水分離器に水が溜まっていないですか？

燃料油に水が混じるとエンジンが始動不能となることがあります。

分離器下部のプラグを緩め、水を排出しましょう。



水の排出

### ○ 燃料フィルターの確認

燃料フィルターに目詰まりはないですか？

目詰まりにより燃料が流れなくなると機関が停止します。

ごみの除去又はフィルター交換を行いましょう。



燃料フィルター（船外機）



燃料フィルター（船外機）

### ○ 燃料油系統の空気の混入

燃料系統に空気が混入していませんか？（特にフィルター交換等の整備後）

空気混入によりエンジンが停止することがあります。

空気抜きプラグを緩め気泡が出終わるまでプライミングポンプ（プライマリポンプ）を突き、空気を抜きましょう



プライミングポンプ（船内機）



プライマリポンプ（船外機）



フィルター空気抜きプラグ（船内機）

### ○ 燃料漏油の確認

燃料ホースのひび割れ、損傷、接続部の漏れはないですか？

漏油により火災、爆発や燃料ホースに空気が混入する恐れがあります。

交換、取付け確認など整備・点検を行いましょう。



漏油状況

### ○ 燃料タンクの空気抜き

使用時にはタンクの空気抜きバルブ「開」を確認していますか？

空気抜きを開けずに使用を続けると、燃料が供給されなくなります。

空気抜きバルブ（空気抜き管）が開いていることを確認しましょう。



燃料タンク空気抜きバルブ

## 冷却水の点検

### ○ 冷却水（海水）用フィルター等の確認

冷却水（海水）用フィルターや冷却水取入口がごみ等により目詰まりしていませんか？

冷却水量不足によるエンジンが焼き付く原因となります。

冷却水用フィルター等のごみを取り除きましょう。

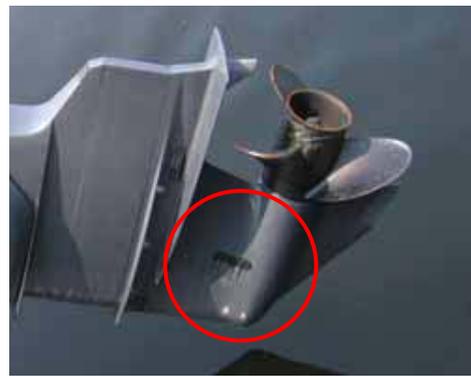
（海上で作業する場合、冷却水取入弁（キングストンバルブ）等を閉鎖して作業しましょう。）



冷却水用フィルター



分解状況



冷却水取入口（船外機）

### ○ 冷却水（クーラント）量の確認

冷却水（クーラント）量は十分ですか。

リザーブタンクの冷却水量が規定量より少ない場合は、規定量まで補給しましょう。

急激に冷却水量が減少している場合は、漏水箇所を調査し整備しましょう。



リザーブタンク

### ○ 冷却水の排出量の確認

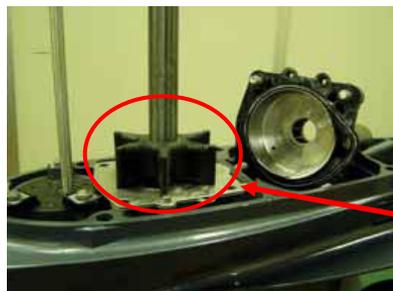
エンジンの冷却水排出量は、勢いはいつもと変わりありませんか。

勢いが無い場合、フィルターの目詰まりでなければ、冷却水ポンプのインペラ（羽根車）が不良の恐れがあります。

定期的の確認し、不良の場合は交換しましょう。



冷却水排出状況



インペラ（羽根車）

ポンプ分解状況

## 電気システムの点検

### ○ バッテリーの確認

バッテリーから電気が供給されなくなると、エンジンや電装品が使用できなくなります。

バッテリーの電圧やバッテリー液量等を確認し充電しましょう。

バッテリーは充電時に水素ガスを発生します。ショート等による火花で爆発する要因になるため、十分に換気してください。



電圧計



バッテリー

### ○ 電気配線、端子の確認

電気配線の皮膜劣化や端子（ターミナル）の接続不良は、漏電や火花等により発火の恐れがあります。バッテリーの固定、端子の接続状況、電気配線の状態を確認しましょう。

コンセントとプラグの隙間に溜まったほこりも発火の要因となります。ときどき掃除するとともに、劣化したコンセントは交換してください。



端子（ターミナル）焼損



配線皮膜劣化

### ○ 発電機（オルタネーター）の確認

頻繁にバッテリーが過放電したりしていませんか？

発電機の作動不良は、バッテリー充電不足、バッテリー上がりに繋がります。

Vベルトの張り具合を点検し、正常に作動しているか確認しましょう。



発電機（オルタネーター）

### 漂泊中の注意点

主機関を停止すると発電しない船舶は、エンジンを停止し漂泊させた状態で音響設備や魚群探知機等の電装品を使用すると、バッテリーが過放電し、エンジンを再始動できなくなることがあります。

電装品の使用には注意してください。

\* 船によって構造や機関の種類が異なります。詳しくは購入時の取扱説明書等を確認ください。